

AI時代の8つの融合スキル



人間だけの活動

主導 (Lead)

共感 (Empathize)

創造 (Create)

判断 (Judge)

人間がマシンを補完するためのスキル

① 人間性回復

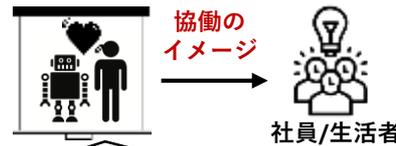
生産性/幸福度が最大化する労働時間の配分を考える



例：医師が患者と会話する時間カルテ入力時間を減らす

② 定着化遂行

マシンとの協働の目的を社員や生活者に伝え概念を定着させる

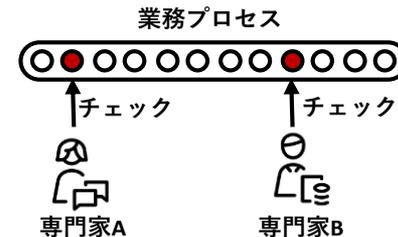


協働の目的を定着化させるには、人間性/社会課題の理解、広報、STEMスキル、起業家精神等が必要

例：Audiは「Piloted Driving」という概念を掲げている

③ 判断プロセス統合

人間の専門知識による判断を加味して業務プロセスを設計する

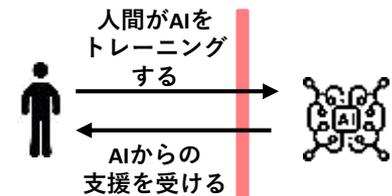


例：CaterpillarではAIが設計した組み立てラインを専門家が確認

共通するスキル

⑦ 相互学習

マシンに教える/学ぶ



人間とマシンが相互学習するUIの設計が重要

例：Capital Oneでは融資チームとエンジニア (UI) が共同でAI開発



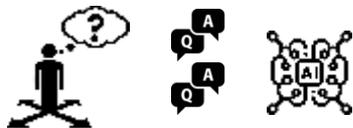
人間とマシンの協働

ミッシングギミドル

マシン (=AI) に人間の力を拡張させるためのスキル

④ 合理的質問

データとアルゴリズムの効果がAIエージェントをフル活用する最大化する質問を投げかける



自動化主導ではなく
最後は人間が判断

例：Steve Shaunaでは価格決定の判断材料をRevionics AIに聞く

⑤ ポット活用

AIエージェントツール例



例：Salesforceでは経営陣の会議でEinstein AIの予測を重視する

⑥ 身体的/精神的融合

労働者の身体の延長線上のように活用できるまで改善する

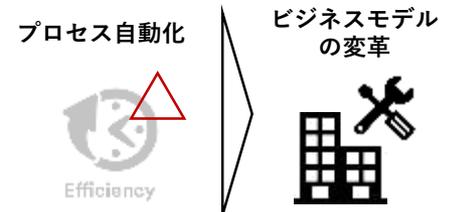


業務プロセスの完全な再構築

例：Kindered AIはVRを活用して人間の動きをリアルに学習させる

⑧ 継続的再設計

業務プロセス・ビジネスモデル・業界全体を変革する



例：Capital Oneは「機械学習企業」を一つの目標とし、ソフトウェアとデータを最大の製品と定義している



マシンだけの活動

トランザクション (Tranzact)

反復 (Iterate)

予測 (Predict)

適応 (Adapt)